

うしく里山の会 広報誌

さとやま

No. 103

2011年9月号

NPO法人 うしく里山の会

事務局 〒300-1212 茨城県牛久市結束町489-1
(牛久自然観察の森内)

TEL 029-874-6600 FAX 029-874-6812

E-mail u_satoyama@infoseek.jp

HP <http://u-satoyama.web.infoseek.co.jp/>



自然の力には勝てない!

あやめ園受託事業

佐藤

輝雄

見事に伸びた「ヒレタゴボウ」と格闘するメンバー

会報七月号にアヤマ園の活動について記載させてもらった。その中に今年はどうにか雑草との競争に、私たちが勝っているとした覚えがある。ところが「とんでもない!」八月末のアヤマ園を見ていただくとうわかれるが、はるかに雑草の生育が早く私たちは見る間に追い越された。見るにも無残な状態になっている。場所によっては雑草に覆われ花菖蒲の株が見えない。その中の厄介者に「ヒレタゴボウ」なるものがある。

「ヒレタゴボウ」とは、別名「アメリカミズキンバイ」とよび、アカバナ科・チヨウジタテ属で、熱帯アメリカ原産の帰化植物である。黄色い花の花弁には葉脈状の筋がある。和名は茎に鱗(ひれ)があり、田んぼに生育し牛蒡状の根があることから、鱗田牛蒡(ひれたごぼう)と呼ばれる。しかし、抜いてみると根は真っ白で数本に長く枝分かれし、牛蒡とは程遠い感じがする。種子は砂粒のように細かく、一端こぼれるとものすごく増えて、おまけに生育が早く(一週間に十センチは伸びるだろう)か本場に厄介者である。そして、高さは1mにもなり枯れる頃は茎が木片化して始末に負えない。他の雑草も伸び放題だが、特にヒレタゴボウだけ先行して抜き取っている。

また、今は株分けの最中でもある。株分けは開花終了後即行うのが望ましい。自然は待ってくれない。私たちは今、毎週月曜日・木曜日に暑さとの戦いもあり、早朝六時半から十時半に作業を行っている。雑草に引き離された今、八月後半からは臨時の作業として毎日行うことにした。

メンバーも新しく二人加わった。(Aさん)男料理人で人柄もよく頼りになる。もう一人のAさん、見るからに体格がよく力持ちの感じ。お二人とも夏の暑い苦しい時期にメンバーに入られ気のどくかとも思うが、私たちが取っては実に頼もしい限りである。

全員でこの雑局を乗り切っトコシジャー



うしく里山の会には

個性豊かなプロジェクトが

たくさん活動しています。

先月はどんなことがあったでしょうか？

それでは紹介しましょう！

プロジェクト活動報告



親子農業体験講座
一般参加者 田口 珠美

たのしい！たのしい！収穫祭

梅雨も明けぬうちから猛暑続きの七月初め。本日の作業は、「里芋畑の草取り・追肥・土寄せ」と、「じゃが芋の試し掘り」です。

小さな子供達も大人に混じって懸命に草をむしります。草取りの間は遊びに夢中だったお兄ちゃん達も、追肥と土寄せのお手伝いには大活躍でした。雑草だらけの畑でしたが、皆で力を合わせたら立派（？）な畑に大変身。まだ背も低く、葉も小さい成長途中の里芋達ですが、お行儀よく整列して天に向かって背伸びしている姿は、微笑ましくもあり、たくましくもあり：・頑張って美味しい里芋になって欲しいものです。

次はじゃが芋の試し掘り。二週間前、じゃが芋の葉には黒い斑点ができていて、元気がありませんでした。案の定「疫病」にかかっており、葉はすっかり枯れています。それでも根元を掘ってみると、じゃが芋が出てきました。病気に負けずに土の中で育ってくれたお芋に感謝！事前の放射性物質の検査でも安全な数値だったとのことで、今回の収穫祭が楽しみです。

梅雨が明け、暑さも増した七月十六日。お待ちかねの収穫祭です。みんな熱中症対策も万全に畑に集合。「芋ほり」というと、葉を引っっこ抜くとイモがゴロゴロ出てくるイメージがありますが、さにあらず。葉が朽ちてしまったので、雑草の合間にわずかに残る茎の残骸を目印に、ひたすら掘りかえす宝探し状態なのです。どこが畝だったかさえ定かでない所を、スコップやシャベルで掘っていくと、出てくる出てくる可愛いおいも！子供達も歓声を上げなが



ごちそうさまの集合写真 11.7.16

ら夢中で拾い集めます。一センチくらいの超小粒から、子供のこぶしほどのものまで大きさはさまざま。全体的に小ぶりではありますが、種芋四種類（男爵・さやか・メークイン・シャドークイン）十キロから、全部で五十キロの収穫量となりました。

豊作かどうかは別として、自分達の植えた作物が、バケツやカゴいっぱいになって並んでいる光景は感慨無量でした。そして、用意して頂いたお料理は「芋煮・イモピザ・カレーうどん」どれも採れたてホクホクのじゃが芋たっぷりでおいしくい！みんなたくさんおかわりして、お腹いっぱい満足顔でした。

スーパーでは買うことのできない美味しいお芋と貴重な体験がありがとうございました。



巨木リサーチ2事業報告 牛久自然観察の森チーフ

齊藤孝

「牛久の巨樹」等の発刊に際して

巨木リサーチ事業フェーズ2の皆さん、代表であり編集委員会の責任者である渡辺さん、この度は「牛久の巨樹」ならびに「牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書」の発刊おめでとうございます。五年間の汗と笑顔の結晶がついに身を結びましたね。本会が本格的に編集作業に携わった最初の刊行物が完成した事は、同じ会員としてとても誇らしく感じます。皆さん本当にお疲れさまでした。

「牛久の巨樹」には、「市民の木」の他に、メンバーの皆さんが足を運んで新たに発見したものもあり、これまで殆どの市民が知らなかった巨樹が多数紹介されています。「一歩一歩、一か所一か所丁寧に調査をする」、その口で言うのは簡単ですが、春夏秋冬、地道な努力の積み重ねがあつて、はじめてこういった「知られざる名木」に光が当たったのだと思います。

また、同書の用語解説には、樹木関係の用語に加えて石造物の解説も掲載されており、石仏や石神（例えば十王塔や月待塔など）についても分かりやすく触れられています。これは、調査に携わった皆さんが、



長きに渡り樹木を大切に守ってこられた地域の方々（所有者・管理者）にも目を向け、敬意を払いながら活動を進めてきた事の表れではないかと感じます。

渡辺代表は本会の運営委員会等で常々「事業のミッションに沿って活動がなされているかの検証を行う事が極めて重要である」と発言されています。巨樹の調査は、ともすると樹木の生態や状態のみに着点がおかれてしまふ場合がありますが、そのような「木を見て森を見ず」にならないよう、全体的な視野で牛久の巨樹を把握しようと言実行されてきたのでしよう。次世代に自然的文化遺産を継承する、という点では、もう一方の「牛久市協働事業巨木リサーチ事業報告書」は、これから巨木調査を行おうと計画している自治体や市民団体にとって、大変重宝されるであろう秀逸な仕上げとなっております。

幹周や樹高、樹冠幅の測定法の図などは、既刊の他団体の調査報告書ではあまり詳しく触れられてきませんでしたが、本書の丁寧な記述は後進の団体にとって非常に有難いものとなるでしょう。同時に、調査の「その後」とも言える、診断や管理といったアフターケアの活動に関する記述もあり、本会の巨木リサーチ事業の独自性やメンバー層の深さが伝わってきます。



そして報告書には、事業を支えてこられたメンバーの皆さんの御名前が多数掲載されています。それぞれの得意分野を活かし、あるいは知見を重ねての五年間、決して簡単ではない作業を黙々とこなして刊行に辿り着いた、その情熱には胸を打たれるものがあります。調査のみならず、展示報告会や秋祭り出展、市報への「牛久の巨樹」連載など、本当にやるべきことの多く、充実した時間だったのではないのでしょうか。フェーズ1終了時点で既に二千余通の電子メール発信がなされたという話からも、その充実ぶりが伝わってきます。最後に、責任者として二冊の刊行を実現された渡辺代表、過去幾度となく、ネイチャーセンター事務所奥の印刷室でメンバーの為に資料を刷り続けた姿がとても強く印象に残っています。場合によっては考え方の異なる個人的な仲間達が同じ土俵で議論出来るよう、考えながら工夫しながら資料を作り続けての5年間だったように感じます。そして、どのような小さな作業時でも、ネイチャーセンターに予め予約電話を入れて下さったご配慮にも感謝したいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。





雑木林応援隊

石川 満夫

野菜づくり

春本番になると種まき。苗植え・移植などで忙しくなります。どの種をどの場所に移すかの作戦を立てていきます。その作戦の最も重要な事が「連作」との戦いです。「連作」とは同じ野菜を同じ場所で作る続けることです。そうすると「連作障害」が発生し生育不良、収穫減少につながっていきます。野菜の種類によって連作障害の発生状況に多少の差があります。特にマメ科などは出やすく、サツマイモ・ネギなどは出にくいものです。この作戦を立てる上で、最も役立つ武器は畑の記録です。おとしや去年、畑のどの場所でもどんな野菜を育てていたかを記録しているノートです。そのノートを見ながら、連作の害を避けるために種類の違う野菜を割り付けます。



野菜づくりの成果

また畑のうねをいくつかに分けて数種類の違う野菜を順番につくる『輪作』という方法があります。この方法は効果があるが狭い畑ではやりくりが大変で難しくなります。連作すると病虫害が増える相性が悪い組み合わせがあります。一方組み合わせると生育が良くなる相性がある組み合わせもあります。野菜の種類によってうね幅、株間などの違いがあります。

そしていよいよ種まきになります。種のまき方には、ばらまき・うねの全体に平均にバラバラとまくコマツナ、シュンギクなど

すじまき・一直線に溝をつくりまくニンジン。ホウレンソウなど

点まき・株間を決め一ヶ所に数個まくダイコン、ハクサイなどです。野菜によってまき方の違があり、種まき後の管理として追肥の与え方、病虫害対策、土寄せなど収穫までの栽培作業があります。

ある一日の活動記録です。

野菜の種まきをしました。土づくり、うねづくりは終わっています。

こまつな、ほうれん草・しゅんぎくを「すじまき」にしました。水菜は「ばらまき」です。大根は「点まき」にしました。

セオリーどおりの種のまき方とならないのもありました。

知恵と経験を役立たせました。もちろん「連作」の戦いは勝利しています。

種をまいたところには、水をやりました。皆で豊作を期待、しばらくの間、楽しみが続きます。途中での何回かの間引きも収穫として楽しみの一つです。

次回の活動日には、芽を出していることでしょうか。



たくさん収穫されたじゃがいも



里山自然観察隊

平塚 芳雄

モニタリング1000里地調査における種名の同定

種名の同定

八月十三日(土)、月例のモニタリング1000里地調査を実施しました。このところの猛暑続き、当日も晴天で暑い日でした。予定時刻の八時三十分、得月院前駐車場に集合したのは常連の四名。今回は調査活動に入る前に、九月十日(土)に開催を予定している植物観察会の準備について約二十分間話し合いスケジュールを立てました。午前九時前に、調査活動を開始。所定のコースを巡り何時もの様に確認した植物名をリストアップ。延べ四百種を記録。真夏の暑さでしたが、調査コースは樹木の陰になる所が比較的多く、炎天下となる田んぼの畦道でも稲穂を渡る風が思いのほか涼しく、無事に調査を進めることができました。但し、今回も予定時間をかなりオーバー、終了は午後一時四十分過ぎに。今回の調査ではつる植物の繁茂が目立ち印象に残りました。カナムグラ、カラスウリ、クズ、ヒルガオ、ヘクソカズラ、ヤブガラシ、ヤブマメ、ヤマノイモなどが最盛期で他の植物の上を広く覆ってその勢力を競っているようでした。中でもカラスウリは何ヶ所も幅数メートルの緑のカーテンになっていました。植物調査の難しさの第一は種名の同定で、毎回、そのためにかなりの時間を費やしています。特に似たもの見分けは難しく、今回の調査でも、同じように冬を口ゼットで過ごした「ハルジオン」と「ヒメジョオン」。舌状花の僅かな出方の違いで判断しなければならぬ「オオアレチノギク」と「ヒメムカシヨモギ」。



カラスウリがつくる緑のカーテン 11.8.16

花序の枝の太さなどで判断した「オヒシバ」と「メヒシバ」・「アキメヒシバ」・「コメヒシバ」。十字状花をもっているアブラナ科のナズナの仲間である「ナズナ」・「マメグンバイナズナ」・「イヌガラシ」・「スカシタゴボウ」・「タネツケバナ」等の見分けには私の不確かな知識では同定に一苦労です。毎回同行メンバーに最終確認をお任せする次第ですが、同行メンバーでも不明な草については図鑑で調べることになります。それでも明確に判断できないことがあり、宿題になることも。

違いが分かり、名前が分かれば「雑草」に対する親しみが更に増し、調査がもっと楽しくなるのですが、私も早く「違いが分かる」男になりたいものです。

第三回目

副代表理事 阿部 幸浩



うしく里山の会は、平成十五年四月に市民団体として誕生してから今年で八年目となります。実は会の母体となった「牛久自然観察の森友の会準備会」が設立されたのは平成十二年六月ですから、今年が会が生まれるきっかけとなった時から十年目の節目の年と言うこともできます。私は機会があり、この友の会準備会から携わることができましたので、うしく里山会の生い立ちを振り返りたいと思います。

友の会準備会（平成十四年四月からは友の会設立協議会）という名称のとおり、観察の森の利用者が交流を深める場、自然への理解や知識を深めることができる場、環境保全活動に参加できる場としての「友の会」の発足を目的として、観察の森に長く関わっていたボランティア個人や団体の代表者等が集まりました。

友の会設立のための検討は、はじめ半年程度の予定でしたが、結果として約一年半の長期間にわたりました。既存団体と友の会の位置づけや活動の内容・範囲など様々な議論を進めるなかで、これから作る組織は観察の森内の活動に限定した団

体ではなく、観察の森を活動の拠点としつつ、牛久周辺の里山環境の保全活動も行うことができる団体を新たに設立しよう！魅力的な活動を展開して新たな仲間を募ろう！将来的にはNPO法人も目指そう！という方向性が生まれました。

平成十四年十一月には「うしく里山の会設立準備会」を立ち上げ、牛久周辺の自然と人が調和した美しい環境を保全し未来に引き継ぐことを目的に掲げて、平成十五年四月五日設立総会を開催し「うしく里山の会」が誕生しました。その後、平成十六年九月二十九日にはNPO法人格を取得し、現在、牛久自然観察の森の運営に会が指定管理者として携わることができるとは、観察の森ファンの一人として



平成15年4月5日、記念すべき
うしく里山の会 設立総会が開かれました

も大変うれしく思っています。

友の会準備会当時、世話役であった観察の森職員のみなさんが友の会という形態にこだわらず、また集まったメンバーの議論に十分な時間をとり見守っていたいただいたことに今でも感謝しています。

全国に十ヶ所ある自然観察の森のなかで、牛久自然観察の森の魅力は、施設が私たちの暮らしの身近にあること、自然への案内人であるスタッフがいつも暖かく迎えてくれること、また観察の森を訪れる（ボランティア活動している）市民のみなさんが楽しんでる姿がそこにあるからだと思っています。

三月に発生した東日本大震災は、放射線の問題など観察の森にも想定できなかった大きな影響を与えています。このような時だからこそ、本会の会員ひとりひとりが観察の森のメインサポーターとして、様々な面から観察の森を応援することができればと思っています。

うしく里山の会 その他の活動報告

佐藤 輝雄

うしくカップ祭りに参加する

七月三十・三十一日に開催された「うしくカップ祭り」に「牛久自然観察の森」と「うしく里山の会」が合同で参加しました。牛久観察の森は丸太タワーの数の挑戦で、何段のタワーができるかへ挑戦してもらいました。三十段以上積み重ねた方には記念品もあり好評でした。

また、うしく里山の会では森の間伐材でつくったストラップや積木、雑木林応援隊から提供のあつた竹炭を販売、約八千円の売り上げとなりました。

丸太タワーへ挑戦する
ちびっ子



牛久市役所・うしく里山の会協働で 根古屋川堤防の除草を行う

八月五日、牛久市と協働で根古屋川の堤防の除草作業を行いました。ここは、毎年秋に近隣の子どもたちに自然環境保護教育の一環として、うなぎの稚魚を放流する行事が行われるところ。猛暑の中、身の丈以上に伸びた「葦」等に悪戦苦闘でした。会員から四名参加しました。



刈払い機で葦に挑戦するFさん

クラフトを販売する
会員のMさん



結束町みどりの保全区

エコアップ作戦

齊藤 孝

うしく里山の会全体事業

里山保全ボランティア

「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」

参加者募集のお知らせ

牛久市結束町の牛久自然観察の森に隣接する「牛久市結束町みどりの保全区」の森林維持管理作業を行う

「エコアップ作戦」では、地域の皆さんの協力のもと、下草刈りや除間伐、風倒木の処理等を行なっています。

活動には会員・一般問わず参加出来ます。

皆様のご参加お待ちしております。

九月の活動日時

二日（金） 午前九時～十一時半

十八日（日）午後一時～三時半

八月は夏休みとなり活動はありません。

集合 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
一階倉庫前

（予約不要／荒天時は中止）

ホームページに情報掲載）

持ち物 長靴、軍手（長袖、長ズボンで）

刈払機・チェーンソー使用は資格所有者のみ。

問い合わせ先 029-874-6800 担当：石神





牛久自然観察の森だより
チーフコーディネーター 齊藤 孝

園内における除染作業にご協力ください

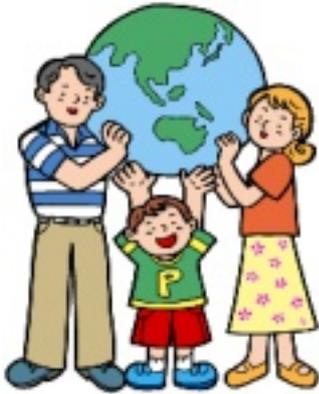
牛久市が六月上旬に開始した空間放射線量調査により、牛久自然観察の森にも東電福島第一原発事故による放射性物質が降り注いだ事が確認されました。これは、同原発の事故後、気体状（ガス状あるいは粒子状）になった放射性物質が大気とともに流れてきた際、その一部が局地的な降雨とともに地上に降り注ぎ、地面に（あるいは植物上に）沈着した事が原因であると推測されます。

同調査では、観察の森が牛久市内における空間線量測定地点（平成二十三年七月十四日：全五十二カ所高さ一メートル）の中で最も空間線量が高い場所（高さ一メートルで0.4μSv毎時・地表面は0.5μSv毎時）であることも示されました。

来園者の自由意思による散策・行事参加が利用主体の施設ではありますが、主催行事等様々な事業の実施に際して、放射線による被ばく低減の配慮が求められる事態となりました。

牛久市では「公園において空間線量が1.0μSv毎時以上になった場合は、公園の砂場の利用を禁止し、当該公園の利用を制限します」としています。一方、

施設利用者の中には、同基準値が比較的高く設定されているのではないかと不安を感じ、



牛久自然観察の森がいわゆるホットスポットであるとして利用を見合わせるケースも出ています。外部被ばくや内部被ばくなど、少しでも被ばく総量を抑えたいという方にとっては「この時期に無理をしてまで観察の森に行く必要はない」との主張があつて当然です。こういった不安を少しでも緩和するため市担当課と協議を行い、九月より園内各所の除染作業を開始することにしました。現在、除染作業開始に向けて、環境放射線計を用いて園内各所における空間放射線量の調査を行っています。

除染作業は、この結果に沿って先ず「値が高く」「利用者の使用頻度が高い」場所から優先的に実施したいと思います。第一回作業は、現時点で比較的高い数値を確認している「タヌキの林からコジユケイの林までの園路」にて、土壌表面の剥ぎ取り作業を行います。（同地では園路中央上高さ一メートルで0.4μSv毎時前後・地表面付近で0.5μSv毎時前後の値を記録しています）

実施予定日：平成二十三年九月二十三日（金・祝）

午前九時～正午（雨天中止）

作業内容：環境放射線計による測定（作業前後）

除染作業（落ち葉清掃・土壌剥ぎ）

持ち物：布手袋（軍手等）、長靴、ゴム手袋、

マスク（防塵マスク等）、タオル、

飲み物 服装は長袖長ズボン

土のう袋等作業道具は森で準備

申込み：当日タヌキの林集合（予約不要）

会員の皆様へ

「ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。」

身近な樹木
No. 6
ヌルデ

ウルシ科ウルシ属の落葉小高木で、別名フシノキといわれています。北海道～琉球の平地の二次林に生え、県内でも全域に自生します。市内では林縁や空地のやぶなどでよく見られる身近な樹種です。

高さ五～七mほどになります。葉は楕円形の小葉が七～十三枚の奇数複葉で、ちよつと鳥の羽のように見えます。葉の軸にひれのような翼があることが特徴で、見分け方のポイントです。

雌雄異株。花期は八～九月。夏の終わりに長さ二十～三十cmの写真のような円錐花序を出し、黄色の小さな花を多数咲かせます。花は直径約一五mmの五弁で、雄花は雌ずいが、雌ばなは雄ずいが、それぞれ退化しています。果実は扁球形で直径約三mm、熟すと横赤色で先が白く、全体が軟毛で被われ、多数かたまつて垂れさがります。

葉にヌルデノフシムシが寄生して出来た虫こぶをフシ（五倍子）といって、インクの原料、染料、薬用に用いられています。秋には紅葉します。ウルシの仲間にはウルシオイルを含み樹液が皮膚につくと、かぶれます。ヌルデは無害とされていますが、体質や条件によってかぶれるそつです。



ヌルデの花序 渡辺 09.9.3

名前は幹に傷をつけて白い樹液をとり、粉にして器物に塗ったこと由来します。（石川満夫）

2011年9月 NPO法人うしく里山の会 活動カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
				1 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	2 里山保全ボランティア 9:00NC クラフトプロジェクト 13:00NC	3
4 巨木サーチ2(特) 8:30得月院P 公開里山セミナー 9:30ひたち野リフレ	5 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	6 森の畑 9:30畑	7	8 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	9	10 里山自然観察隊 (植物観察会) 9:00森P 親子農業体験講座 9:00畑
11 雑木林応援隊 9:00ムジナ	12 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P (会報等原稿〆切)	13 里山自然観察隊 (モニタリグ 里地調査) 8:30得月院P 森の畑 9:30畑 巨木サーチ2(特) 13:30ボランティアC	14	15 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	16 クラフトプロジェクト 13:00NC	17 雑木林応援隊 9:00炭屋
18 雑木林応援隊 9:00炭屋 運営委員会9:00NC 里山保全ボランティア 13:00NC	19 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 雑木林応援隊 9:00炭屋	20 (休園日) チーム'街路樹20(受) 8:30市ボランティアC	21 (休園日)	22 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P 森の畑 9:30畑	23	24 巨木サーチ2(特) 8:30市役所玄関前 チーム'街路樹20(受) 13:00市ボランティアC (交流会)
25 雑木林応援隊 9:00炭屋	26 (休園日) アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	27 (休園日)	28 森の畑 9:30畑 会報発送 13:00NC	29 アヤマ園(受) 6:30アヤマ園P	30	

活動日は天候等により変更となる場合がありますので、最新情報はホームページ(トップページ)のお知らせ欄をご確認ください!

【凡例】

森: 牛久自然観察の森
NC: 牛久自然観察の森ネイチャーセンター
P: 牛久自然観察の森駐車場
炭小屋: 牛久自然観察の森駐車場奥の炭小屋
畑: 牛久自然観察の森駐車場奥の畑
ゴジユケイ: 牛久自然観察の森ゴジユケイの林
観察舎畑: 牛久自然観察の森内観察舎前の畑

ムジナ: 結東町の雑木林(通称ムジナの里)

市役所: 牛久市役所本庁舎
ボランティアC: 牛久市ボランティア市民活動センター
中央生涯C: 牛久市中央生涯学習センター

アヤマ園: 三日月橋観光アヤマ園

(休園日): 牛久自然観察の森休園日
(受): 受付事業
(特): 特別事業



編集後記

昨年引き続き今年も猛暑の夏になりました。しかし、八月後半になりますと何となく朝夕に涼しさを感じられるときがあります。

八月二十三日は二十四節気の一つ「処暑」にあたり暑さが収まり新涼が間近になるといわれます。また今年は大震災に遭い、原子力に騒がれ一層暑い夏となつてしまいました。この影響はまだまだ終わっていません。いつになったら安堵になるのか・・・。

以前、ある研修で講師から、スズメが駆け足で移動するところ。栗のイガの断面図。この二つを絵に書きなさいと言われ、百名近くの受講生が一斉に書き始めましたが大半の人は不正解となりました。講師がいわく。あなたたちは物を見ることで物を見ることはできないね!物を単なる物体として見ないで、観察するという心構えを持つこと。是非これを大事にすること!自然観察の絶対必要条件だよ!

ちなみにスズメは両足で跳ねて移動する。皆さんの絵、交互に足を動かすのは鶏のひよこだよ(笑)。多くの鳥はこの交互のスタイルだけ。また、栗のイガは一本一本生えているのではなく、元の一本から何本かに分かれている、もう一度ちゃんと観察しなさい。基本!基本!と散々でした。

このような事例は数多くあります。森林総研の展示ルームでも昆虫を拡大して観るコーナーがあり親子ともども新たな発見にビックリしている姿もありました。植物の観察会等でも特徴をうまく捉まえれば、いつまでも記憶に残るのではないのでしょうか。

佐藤輝雄記

広報委員会からのお知らせ

次号2011年10月号の発送は9月28日(水)午後1時からです。お手伝いいただける方はネイチャーセンターまでお越しください。(尚、発送日・時間につきましては都合により変更する場合がありますので事前に御確認いただければと思います)よろしく願いいたします。